

ひょうご伝説紀行  
妖怪と自然の世界

子育て幽霊  
墓場で生まれた赤ん坊

伝説

子育て幽霊  
墓場で生まれた赤ん坊

紀行

高僧と幽霊  
・三田永沢寺  
・曹洞宗寺院と子育て幽霊伝説  
・産女と餅を買う女

関連情報

用語解説  
参考書籍  
所在地リスト

伝説

子育て幽霊 墓場で生まれた赤ん坊

三田市（さんだし）の北部、篠山市（ささやまし）との境目近くに、永沢寺（ようたくじ）というお寺があります。このお寺を開いた通幻禅師（つうげんぜんじ）は、お墓から生まれたと伝えられています。

ある夜のこと、村にある飴屋（あめや）さんは、コツコツと戸をたたく音に気づきました。

「こんな時間にだれじゃろう。」

と、戸を開けると、青白い顔をした女の人が立っていて、

「夜分にすみません。飴を一つください。」

と、銭を出しました。その銭の冷たいこと冷たいこと。飴屋のおじいさんはぞっとしました。女の人は飴を買うと、夜のやみにとけるように消えていきました。

それからというもの、毎晩毎晩、同じ女の人が飴を買いにくるようになりました。おじいさんとおばあさんは、どうにもうす気味悪くなって、お寺の和尚（おしょう）さんに相談しました。

「おかしな話じゃな。わしが様子を見てみるとしよう。」

和尚さんは飴屋さんにやってきて、女の人がくるのを待つことにしました。

その夜も、やはり女の方は飴を買いにきました。買った飴を大事そうにかかえてまた夜のやみに消えていこうとします。和尚さんがその跡をつけて行くと、女の方は村の墓場へ向かい、新しくうめられたばかりの墓へ、すーっと吸いこまれるように消えていきました。

するとその墓の中から、「おぎゃあ、おぎゃあ。」という赤ん坊の泣き声と、それをあやす女の方の声がします。

和尚さんはおどろきましたが、すぐに気をとりなおして、声でするお墓を掘り返しました。すると、このあいだ亡くなったばかりの女の方の遺体のそばで、まるまると太った男の子が泣きながら飴をしっかりとにぎりしめていたのです。

和尚さんはすぐにこの子をだきかかえると、飴屋さんへ急いで帰りました。

「この子は、仏様がさずけてくださった子供じゃ。大事に育ててはもらえないだろうか。」

おじいさんとおばあさんも、和尚さんの言うとおりの思い、大切に赤ん坊を育てることにしました。

赤ん坊は、大きくなってからきびしい修行をつみ、立派なお坊さんになりました。このお坊さんが、永沢寺を開いた通幻禅師だと伝えられています。

（『郷土の民話』丹有編をもとに作成）

## 紀行 高僧と幽霊

### 三田永沢寺

三田市（さんだし）北部の山中にある永沢寺（ようたくじ）。すでに「ひょうご伝説紀行 神と仏」の「『くわばらの里』から武庫川左岸に沿って」でも紹介しているが、この寺は、南北朝時代に通幻寂霊（つうげんじゃくれい）という曹洞宗（そうとうしゅう）の僧侶が開いた寺である。通幻は、比叡山（ひえいざん）で出家し、能登国（のとのくに＝現在の石川県北部）総持寺（そうじじ）などで修行をつんだ後、応安3（1370）年、室町幕府の重臣だった細川頼之（ほそかわよりゆき）の招きによって永沢寺を開いたとされる。弟子たちにも通幻十哲（つうげんじゅってつ）とよばれる優れた人々が出て、各地に多数の寺を開き、曹洞宗の中で通幻派と呼ばれる一派を形成することとなった。



永沢寺



永沢寺

こうした永沢寺に伝わっているのが、妊娠中に亡くなって葬られた母親から、墓の中で生まれたのが通幻であるとする伝説である。死んでもなお子供を守ろうとする母の愛の深さが、幽霊の薄気味悪さとともに人々の心をつかんだのであろう。この伝説は、全国各地の曹洞宗系の寺院でも布教のために語られていたことが指摘されていて、類話は全国的に存在する。その広がりが宗教と密接に結びついていたことがわかりやすい事例として、この伝説は興味深い。

## 曹洞宗寺院と子育て幽霊伝説

たとえば、県域でも伊丹（いたみ）や香美町（かみちょう）などの各地で伝えられている。ここでは、香美町香住区（かすみく）の通玄寺（つうげんじ）を紹介しておこう。訪れたのはちょうど秋の紅葉たけなわの時期、写真の通り境内の中央に立つ銀杏の木があざやかな黄金色に輝いていた。



通玄寺

このお寺に伝わる伝説も、三田永沢寺と全く同じもので、臨月に亡くなった母親の幽霊が夜な夜な飴を買いにくること、墓の中で産み落とした子供が通幻であること、が伝えられている。また、お寺のお話では、伝説に登場する飴屋さんも、現在は廃業しているものの、近くにあるという。なお、通玄寺は宗派上では臨済宗（りんざいしゅう）の寺院であるが、通幻が出生地の浦富（うらどみ）に帰る途中に再興した寺であると伝えられている。

つぎに、鳥取県岩美町浦富を訪ねてみた。浦富は、鳥取藩の重臣鶴殿（うどの）氏の陣屋があった近世以来の町場で、現在でも旧街道に沿って商家が並ぶ街村の雰囲気をよく残している。こうした浦富市街地の北はずれに、香林寺（こうりんじ）というお寺の跡がある。ここに、「土葬神碑（つげのさいひ）」、「子持地蔵」、「母子愛碑」という3つの石碑が並べられていて、通幻の生誕地であると伝えられている。



香林寺跡



土葬神碑



子持地蔵



母子愛碑



浦富の町並み

通幻の生誕地には書物によって諸説があり、曹洞宗関係者が著した書物だけで見ても、浦富説のほかに、豊後国（ぶんごのくに＝現在の大分県）武蔵郷（むさしごう）の出身とする説、京都出身とする説などがある。書物の数としては京都とするものが多いようだが、出生地をめくってこうした諸説が出てくる背景には、子育て幽霊伝説の広まりがある。語り手によっては、通幻の出生地をそれぞれの地域に引き付けて語ることもあったようだ。

## 産女と餅を買う女

子育て幽霊伝説とよく似た話として、「産女（うぶめ）」という妖怪の話がある。妊娠中に亡くなった女性が、赤子を抱いて幽霊として現れる、というもので、これも全国的に分布している。産女は、通りかかった人に赤子を抱かせ、抱いた人は一定の試練を乗り越え、怪力や金品などの福を得る、という話になっているものが多い。産女の話は、12世紀成立の『今昔物語集』にその原型が見え、比較的古い話である。

また、妊娠したまま死亡した女性を葬るときには、腹を割いて胎児を取り出してから葬るべきとする慣習が全国的にあったことが指摘されている。母親の霊を、胎児に対する心残りから解き放って成仏させるために、母体と胎児を分離する必要があると考えられていたようだ。ただし、こうした慣習や考え方は、中世の末期ごろから社会に広まっていったと見られていて、産女の話よりは新しい。

そして、このような慣習や考え方の広まりに対応して、妊娠したまま死亡した女性に関する葬送儀礼も発達していったようだ。たとえば江戸時代の曹洞宗の場合、実際に腹を割いて胎児を取り出すのではなく、僧侶の呪法によって母子が分離したと信じさせる方法が採られていたという。

子育て幽霊伝説は、こうした妊娠女性の葬送に関する知識や経験をもとに、僧侶たちによって、その効験を広める説法の中で生み出されたものと考えられている。その際、古くから語り継がれてきた産女の話も、素材の一つとなったと見てよいだろう。

なお、通幻と似たような子育て幽霊伝説は、別の宗派の僧侶にも見られる。たとえば、関東地方で伝えられている頭白上人（ずはくしょうにん）伝説がある。頭白は15世紀末～16世紀初頭に実在した人物で、北関東を中心に石塔造立などの宗教活動を進めた僧侶である。彼にも、殺された母親から墓の中で生まれ、母親の幽霊が夜な夜な飴を買いにきた、との伝説があり、そのため生まれながらに頭髪が白かったという。さらに話によっては、死後大名に生まれ変わって、自らの敵である別の大名を討ったとするものもある。

頭白伝説は、天台宗や真言宗、浄土宗などの寺院と結びつけて語られていて、曹洞宗との結びつきは希薄である。このほか、時宗の国阿（こくあ）、浄土宗の学信（がくしん）、浄土真宗の大巖（だいごん）、日蓮宗の日審（にっしん）など、さまざまな宗派の僧侶にも、子育て幽霊伝説がある。マイナスイメージの言葉ではあるが、一般に「葬式仏教」とも言われるように、江戸時代以降は、僧侶が庶民の葬送儀礼にたずさわることは宗派を問わず一般化していた。そうした状況の中で、さまざまな宗派で、布教や説法のために、高僧に関する子育て幽霊伝説が語られるようになったと考えられるのである。



産女（『怪物画本』、個人蔵）



頭白が勧進した板碑  
（千葉県香取市大根）

さらに、子育て幽霊伝説は、中国の説話との関連も指摘されている。12世紀の南宋（なんそう）のころに成立した『夷堅志（いけんし）』に、「餅（ピン）を買う女」として、よく似た話が載せられている。

ある民家の妻が妊娠中に死亡したので墓地に葬った。そのころから餅屋へ赤子をかかえて毎日餅を買いに来る女があり、餅屋の者が怪しんであとをつけると墓場のあたりで消え失せた。いよいよ怪しく思ったので、女の裾に赤い糸を縫いつけてあとをつけていくと、果たして糸は草むらの塚の上にかかっていた。死んだ女の家族が塚を掘り返すと、赤子は棺の中で生きていたという。

この話に出てくる「餅」とは、日本の「もち」ではなく、小麦粉を練った生地を焼いたパンに近い食べ物である。曹洞宗を含む禅宗の僧侶たちは、こうした中国のものを含むさまざまな説話集をよく読んでおり、説法の素材としてよく使っていたとされている。

このように、子育て幽霊の場合は、伝説の生成と伝播において、曹洞宗をはじめとする僧侶たちが深くかかわっていたことがわかっている。歴史の中で、僧侶たちは布教のために、日本国内はもとより、海を越えた中国の説話などをも参考にしながら、さまざまな物語をアレンジしながら語り広めていたようだ。このことは紀行文「犬と人」や「岩と樹木」でも述べている。宗教に限らず、何か大切なことを社会に伝えるためには、受け入れやすくするためのいろいろな工夫も必要であるが、これは今に始まったことではないようだ。ただし、その工夫の仕方には、時代ごとの特徴がある。



産女（『復襲爰八高砂  
（かたきうちこはたかさご）』、  
個人蔵）

## 用語解説

### 【通幻寂霊】つうげんじゃくれい

1322 91。南北朝時代に活躍した曹洞宗（そうとうしゅう）の僧侶。比叡山（ひえいざん）で出家後、豊後国（ぶんごのくに＝現在の大分県）大光寺、加賀国（かがのくに＝現在の石川県）大乘寺などで修行し、応安元（1368）年には曹洞宗大本山総持寺（そうじじ）の住持となる。また、応安3（1370）年には丹波国に永沢寺を開き、そのほか、加賀国聖興寺、越前国（えちぜんのくに＝現在の福井県東部）竜泉寺を開いた。了庵慧明（りょうあんえめい）ら通幻十哲（つうげんじゅってつ）と呼ばれる弟子たちが全国に寺院を開き、曹洞宗の中での一流派となった。

### 【曹洞宗】そうとうしゅう

禅宗の宗派の一つ。日本では、鎌倉時代にこの宗派の教えを伝えた道元（どうげん）の法系によって代表される。道元は、現在の福井県永平寺町（ふくいけんえいへいじちょう）に永平寺を開いた。曹洞宗は、南北朝・室町時代以降になると、庶民の葬送儀礼に積極的に関わることによってその教線を広げていった。

### 【総持寺】そうじじ

石川県輪島市門前町（いしかわけんわじましもんぜんまち）にあった曹洞宗の大本山の一つ。もとは真言宗の寺であったというが、元亨元（1321）年、瑩山紹瑾（けいざんじょうきん）が律宗から禅宗にあらため、永平寺（えいへいじ）とならぶ曹洞宗の大本山となった。1898（明治31）年、火災による焼失を契機に移転計画が進められ、1911（明治44）年に神奈川県横浜市鶴見区（かながわけんよこはましつるみく）に移転した。なお、輪島市門前町には現在も総持寺祖院が残る。

### 【『夷堅志』】いけんし

中国南宋（なんそう）の時代に洪邁（こうまい、1123 1202）が編纂した奇談集。洪邁は政府の官僚で、歴史書の編纂にも従事した知識人。もと420巻あったが、多くは早く散逸したと見られている。人智を超えた怪異・奇跡の話を集める書物は、中国では六朝時代（りくちょうじだい、3世紀～6世紀）に盛んで、こうした書物を「志怪（しかい）」と呼んだ。『夷堅志』は、こうした流れをくむ新しい時期の書物である。

## 参考書籍

### 伝説の参考書籍

書籍名	刊行年	著者名	発行者
兵庫の民話(日本の民話 25)	1960	編集:宮崎修二郎、徳山静子	未来社
郷土の民話 丹有編	1972	編集:"郷土の民話"丹有地区編集委員会	兵庫県学校厚生会
兵庫のむかし話	1978	編著:兵庫県小学校国語教育連盟	日本標準
日本伝説大系 8 北近畿編	1988	編集:福田晃	みずうみ書房
三田の民話 上	1990	編集:三田の民話編集委員会	三田市教育委員会

### 歴史・文化の参考書籍

書籍名	刊行年	著者名	発行者
葬送墓制研究集成 1 葬法	1979	編集:土井卓治、佐藤米司	名著出版
赤子塚の話(収録:『定本柳田國男集』12)	1963	柳田國男	筑摩書房
亡霊子育て伝説(収録:『兵庫県民俗資料』17)	1935	桜谷忍	兵庫県民俗研究会
伝説の兵庫県	1961 (2000再刊)	西谷勝也	神戸新聞総合出版センター (再刊)
但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書	1974	編集:兵庫県教育委員会文化課	兵庫県教育委員会
日本物語通観 16 兵庫	1978	責任編集:稲田浩二、小沢俊夫	同朋舎
日本の伝説 43 兵庫の伝説	1980	宮崎修二郎、足立巻一	角川書店
兵庫の伝説 1	1981	編集:有井基、絵:のざきジョー	神文書院
日本伝説大系 4 北関東編	1986	編集:渡邊昭五	みずうみ書房
近世仏教説話の研究 唱導と文芸	1996	堤邦彦	翰林書房
近世説話と禅僧	1999	堤邦彦	和泉書院
怪異の民俗学 6 幽霊	2001	責任編集:小松和彦	河出書房新社
「胎児分離」埋葬の習俗と出産をめぐる怪異のフォークロア その生成と消滅に関する考察 (収録:小松和彦編『日本妖怪学大全』)	2003	安井真奈美	小学館
三田市史 9 民俗編	2004	編集:三田市総務部市史編さん課	三田市
勸進聖頭白上人の探索(収録:『栃木県立文書館研究紀要』11)	2007	峰岸純夫	栃木県立文書館
怪力乱神	2007	加藤徹	中央公論新社

## 所在地リスト



永沢寺	三田市永沢寺210
通玄寺	香美町香住区香住236-1
浦富	鳥取県岩美町浦富
大根	千葉県香取市大根

ひょうご歴史ステーション「ひょうご伝説紀行」は、兵庫県立歴史博物館により管理・運営しております。サイトで使用するテキスト・画像などのコンテンツ全般の著作権は当館に帰属し、無断での複写・転用・転載などを禁止いたします。

ひょうご伝説紀行 妖怪・自然の世界  
<http://www.hyogo-c.ed.jp/~rekihaku-bo/historystation/legend3/>

編集発行 兵庫県立歴史博物館  
 〒670-0012 兵庫県姫路市本町6-8 079-288-9011

第1刷 2009年4月1日